



広大な世界観に 支えられた人間讃歌

郡山市立金透小学校校長

川田昌利

「この果てしない宇宙の中で、
たまたまふしぎにも人間として
の生命を与えられたことを大切
にし、同類同士の間、ほんの
束の間の出会いをも大切にしな
いではいられないであろう。」
「人間のこころは、「慈悲とな
さけと和らぎと愛」にあこがれ
てやまない。」

人間を、広い宇宙の中のほん
の小さな生命体の一つと受け止
め、そのような存在の人間をこ
よなく愛し、すべての人の命や生
き方をあたたく見つめる著者
の目が、本書全体を貫いている。
一見、宗教家か伝道者、さも
なくば哲学者の悟りの言葉のよ
うにも聞こえるが、著者はまぎ
れもなく大脳生理学の権威であ
り、精神科医である。そして、
本書には、生命、脳、人格、知
性、欲望、使命感など、人間の
命と精神の問題が、様々な学説
に基づき、豊富な事例を通して
わかりやすく論述されている。

ただ、誠に不思議なのは、本
書は、生命のしくみについて語
っていて科学書でなく、脳の働

きについて語っていて医学書で
なく、人の生き方について語っ
ていて哲学書でない。むしろ、
それらのすべてを包含する広く
深く、そして清浄な著者独自の
世界観、人生観が行間になじみ
出て、読むたびに心うたれる。

宮澤賢治やシュヴァイツァー
にも共通するこうした高い世界
観を生み出す源は、一体何なの
であろうか。勿論、生まれなが
らの資質、本人の勉学、努力も
あるが、著者が若くして死を
も覚悟する大病を得たこと、又、
永年にわたり、らしい病人とか
かわり、命の尊厳、人生におけ
る生きがい等を捉え続けた体
験をぬきにはできない。

今、社会も教育も、混沌とし
ていて不透明である。こういう
暗やみの時にあってこそ、本書
は光り輝いて美しい。

本の名称…(新惑)人間をみつ

著者名…神谷美恵子

発行所…朝日新聞社

発行年…一九七四年

八月二〇日

一冊の本

「電人M」のころ

郡山市立三町目小学校教諭

柳沼雅俊



「マーちゃん。遊びましょう」
ショウちゃんとかオル君の誘い
の声。とうとう捕まると母の見守
る裁縫台の傍で、尻を浮かせな
がら涙目で鉛筆を走らせる私。
こんな有様でしたから、ほと
んど本というものには無縁でし
た。第一、四、五頁読むと眠く
なりますし、指でなぞらなくて
は読めない私には、貸出期間三
日間の図書館の本では読み切る
ことさえできなかったのです。

そんなある日——私は姉の机
の上に一冊の本を見つけたので
す。書名は「電人M」。何のこと
だろうと読み始めると、これが
また実に面白いのです。
「面白いでしょう。探偵小説は先
が気になって、つい読んじゃう

んだよね。図書室にあるよ」
とは、当時の姉の言。
それ以降、全四十六巻から成
る「少年探偵江戸川乱歩全集」
を一気に読み切った様に記憶し
ています。名探偵明智小五郎・
小林少年の活躍や、奇想天外な
二十面相のトリックに胸躍らせ
ながら——。

今回の執筆に当たり、このシ
リーズを手を尽くして捜しまし
た。漸くK小学校の片隅でぼろ
ぼろになった二冊を発見した時
は、懐かしくも寂しくもありま
した。
そうそう、このシリーズは、読
者層が少年少女であることを意
識してか実に穏やかで丁寧な表
現をするという配慮がなされ
ていた点をつけ加えておきます。

本の名称…少年探偵

著者名…江戸川乱歩全集

発行所…朝日新聞社

発行年…初版

昭和三九年

一〇月三〇日

二十八版

昭和五二年

七月三〇日